

KŌYA



JIMYOIN

小坂坊 持明院



▲大伽藍

■高野山の略史

高野山は紀の国、紀の川の南方海拔1,000mの山上にあり、周囲を八葉蓮華になぞらえた峰々に囲まれ、東西6km、南北3kmの一大仏都です。1150余年前、弘法大師が唐より帰朝後、真言密教の道場として開山に着手されました。これが高野山金剛峯寺の創めです。徳川時代の正保の頃には、大小2,000に余る寺坊が廟を並べたが、明治維新に際し寺領及び外山の森林等すべて国家に奉還、現在は千年を越す歴史を秘め老朽古刹に囲まれて建つ堂塔伽藍と10万基を越すといわれる奥の院の墓石と供養碑群のほか、120余ヶ寺がありこれを主体に1,000戸の商家と4,000の人口が住み、全国でも稀にみる境内街を形成しております。



▲総本山金剛峯寺

弘法大師が「金剛峯寺」と命名したのは「金剛峯様閣一切瑜伽瑜祇紙経」よりとったもので高野山の総称である。高野山真言宗4,000ヶ寺、信徒1千万の総本山で、もと太閤秀吉が母の菩提のため建立されたものである。



▲柳の間

豊臣秀次自刃の間として有名、襖の絵は狩野探斎の筆で四季の柳が描かれている。

■年中行事

1月	奥ノ院修正会 金堂修正会 大塔修正会	1.2.3日…(灯籠堂) 1.2.3日…(金堂) 5日…(大塔)
2月	常楽会(涅槃会) 法印転衣式	15日…(金剛峯寺) 22日以後3月15日迄…(金剛峯寺)
3月	御衣加持 奥ノ院正御影供 御影堂正御影供 春季彼岸会	17日…(宝亀院) 旧21日…(灯籠堂) 旧21日…(御影堂) 彼岸中日前後三日間…(金堂)
4月	仏生会(灌仏会) 大覺養羅供 奥ノ院万灯会	8日…(金剛峯寺) 10日…(金堂) 21日…(灯籠堂)
5月	山王院夏祈 山王院豎精 結縁灌頂	旧1.2日…(山王院) 旧3日…(山王院) 3日より5日間…(金堂)
6月	内談講 山王院御最勝講 宗祖誕生会(青葉祭)	旧9.10日…(金剛峯寺) 旧10.11日…(山王院) 15日…(大師教会)

7月	陀羅尼会	1日…(准胝堂)
8月	不断経 孟蘭盆会	7日より7日間…(金堂) 13日より3日間…(金剛峯寺)
9月	大塔御国忌 勸学会	16日…(大塔) 旧21日より10日間…(勸学院)
10月	明神社秋季祭典 奥ノ院諡号奉讃会	16日…(山王院) 27日…(灯籠堂)
12月	御影堂煤払	28日…(御影堂)

■月例会会

月並間講	19日…(御影堂)
御影堂 月並御影供	21日…(御影堂)
奥之院 月並御影供	21日…(灯籠堂)
御影供御法楽 月並御影供	21日…(大師教会)
門徒行法	16日…(山王院)
月並間講	16日…(山王院)
月並御法楽	15日…(金剛峯寺)
月並御法楽	8日…(雲宝館)



▲御廟

承和2年(835)3月21日、弘法大師は大日如来の定印を結び真言を念誦されつつ現身のまま金剛定に入られたのである。弟子達はご定身を浄窟におさめその上に御廟を建立した。海外を含めての1千万信者はこの御廟を入定留身の聖壇として絶対の尊信を捧げ、灯明と香煙は絶えることがない。



▲水向地藏

玉川の清流を背にして地藏菩薩、不動明王、観音菩薩像が祀られ、参拝者は軽木や水塔婆を供え水を手向けて肉身の菩提を弔う。



▲奥の院



▲御影堂

宝形造り木造檜皮葺7間四面の優美な建造物で、真如親王御筆による弘法大師御尊影(秘仏)が奉安されている。弘化4年の再建。

▼大門

宝永2年(1705)の再建。遠く紀淡海峡、熊野連峯等を望み、我が国山岳仏教の代表的な建築物として有名、両脇の金剛力士は法橋運長の作である。

